

## ②音声放送端末機のパターン分析（事務局評価）

検討項目	現状維持（パターン①③） （音声放送端末機「次ページ a 参照」）	新たな手段へ転換（パターン②④） （スマートフォン「次ページ f」を想定）
老朽化への対応	・ 市による機器の更新費用が必要（4億円以上）	・ 市による機器の更新費用は発生しない
機器撤去コスト	・ 市による機器の撤去費用は発生しない	・ 市による現状の機器の撤去費用が発生
設置率（普及率）	・ 宅内工事が必要であり、家人の意向により設置が進まない場合あり ・ 機器の設置場所が必要	・ 市民の大半がスマートフォンを保有 ・ 機器設置における場所の制約がない
受信状態の確認	・ 市民が市からの情報を受信したかどうかを確認することができない	・ 市民が情報を受信したかどうか確認することが可能
将来の 技術革新への対応	・ 機器自体を変える必要があり、技術革新への対応が遅れる可能性がある	・ 機器整備する必要が無い ・ アプリの入れ替えで対応可能と想定され、技術革新への移行がしやすい
携帯性・持ち運び	・ 家にいない場合には、情報を得ることができない	・ 家にいない場合でも、情報取得が可能
双方向通信	・ 市からの音声情報を一方的に受信するのみ	・ 安否確認等、アプリケーションによっては、受信者から回答が可能
情報伝達の正確性	・ 音声情報のため、聞き逃しや聞き流しが発生してしまう可能性がある ・ 音声情報のため、一度の情報量が多い場合、聞き取れる限度がある	・ 文字情報のため、自分の都合で情報を確認することが可能 ・ 文字情報のため、より細かい情報を受け取ることが可能
デジタルデバイド （情報格差）	・ 音声情報を自動受信するため、利用にあたっての操作不要	・ 機器（スマホ）を持たない、利用できない場合、代替手段が必要
有料放送の受信	・ ㈱あいコムこうかの有料放送（おくやみ、催事情報等）を受信可能	・ 機器を撤去した場合、有料放送が聞けなくなる